

吉備システム・ペシャル

東西狂言会 初春狂言福来る。

■解説 《野村萬斎》

小舞

かげきよ

景清後

野村萬斎

【地謡】野村裕基

中村修一

内藤連

能「景清」後場で平家の武将・景清が語る、源平の屋島の鉸(しころ)引きをした武勇談を、狂言小舞にしたもの。

狂言小舞は、紋付袴姿で謡とともに舞う短い舞で、狂言の発声や動きの基礎を作ります。

狂言文相撲 【大名】茂山千五郎

【太郎冠者】茂山 茂
【新参の者】島田 洋海

太郎冠者一人しか家来がない大名が、家来をもつと抱えようと太郎冠者に相談します。そこで太郎冠者は上下の街道から新しい家来を一名連れて帰ってきます。その男の特技が相撲だと聞き、相撲好きの大名はさっそくこの男に相撲を取らせたりますが、相手がありません。仕方なく大名自身が相手になります。一度目は負けますが、二度目は相撲の書を読んで勝ちます。さて三度目は…。

相撲は中世に非常に流行したようで、狂言の素材としてもしばしば使われています。大名の大らかさを感じさせる曲目です。

狂言二人袴

【親】野村 裕基
【太郎冠者】高野 和憲

今日は智入り(結婚後、妻の実家に初めて挨拶に行く事)の日。男の家では準備を整え、智が来るのを心待ちにしている。一方の智は、一人で行くのは心細いからと父親に舅の家の門前まで付き添われてやつてくる。智に礼装の長袴をはかせてやり、父は表で待っていたのだが、太郎冠者に見つけられてしまい、父親も舅に挨拶することになってしまった。しかし、長袴は一つだけ。さて、この親子はどうやってこの場を切り抜けるのか…。

明るいめでたさのある智狂言の代表曲です。天真爛漫な智とそれに慌てる父親の、舞台上から漂う何ともほのぼのとした雰囲気をお楽しみ下さい。

